

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		田中 洋	所 属	教育学研究科高度教職実践専攻	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.50	授業については、シラバスを基本としつつも、受講生の人数や所属等に配慮しながら、適宜柔軟に対応し、学生の理解を深めるように努める。 学生支援としては、高度教職実践専攻2年次指導教員として、修了に向けた学生の研究および学卒院生については修了後の進路決定に向けた活動の援助に努める。		0.50	授業は、対象が学部生か教職大学院生か、受講者数が多数か否か等に応じて、できるかぎり学生の理解を促すようにした。 学生支援については、教職大学院2年次の指導教員として、修了に向けた報告書の作成及び修了後の進路決定等に関する相談をできるかぎり受けるなどして援助した。	
研究	0.30	これまでの研究について、少なくとも一つは学会誌への投稿を行うとともに、次の課題設定に向けた論文を少なくとも1本は紀要等へ発表する。		0.20	これまでの継続的な研究は行ったものの、学会誌及び紀要等への投稿はできなかった。	
社会 貢献	0.05	教員免許状更新講習の講師として、受講者の教育活動にできるだけ役に立つような講習となるように、その内容や方法を工夫する。		0.10	教員免許状更新講習や校内研修の講師を勤めた。	
管理 運営	0.15	副専攻長として専攻長の補佐に努めるとともに、FD委員会の一員としても、認証評価を見通した資料等の作成について、計画的な実施に努める。		0.20	FD委員会の一員として、認証評価への準備を開始するなどFD活動を行うとともに、副専攻長として専攻長の補佐に努めた。	
計	1.00			1.00		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		道田 泰司	所 属	教育学研究科高度教職実践専攻	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.25	<ul style="list-style-type: none"> ・授業を行う(ゼミも含め, 前期週5コマ, 後期週6コマ) ・丁寧な授業準備と授業改善 ・受講生から授業改善のための積極的な意見の聴取, それに基づく振り返り ・ゼミ所属学部学生(4名)を中心とした教育実習の視察・指導助言, 進路相談・指導など ・学生への進路相談 		0.25	<p>前後期とも, 予定通りに授業を行った。 毎回の授業に際しては, 前年度の反省を活かし, 改善をしつつ行った。 ほとんどの授業で, webClassを用いて学生に振り返りを書かせることで, 学生からの意見聴取を行った。 学部ゼミ所属学生(4名)ならびに担当院生(6名)を中心に実習視察, 助言等を行った</p>	
研究	0.25	<ul style="list-style-type: none"> ・データ収集, 分析, 学会発表, 投稿(科研費のプロジェクト) ・研究関連の情報収集 ・論文執筆 ・書籍などへの原稿執筆, 編集など 		0.25	<p>科研費プロジェクトのデータ収集・分析／別の科研費プロジェクトの計画立案補助 ／編著書1冊企画／紀要論文2本刊行, 3本印刷中(うち3本は院生との共同執筆) ／学会誌論文1本執筆中／全国学会で発表2件</p>	
社会 貢献	0.15	<ul style="list-style-type: none"> ・教員免許更新講習の講師 ・その他研修会における講師 ・小中学校などにおける校内研講師 		0.15	<p>免許更新講習講師(必修領域:2日間)／小学校2校, 中学校3校で校内研講師／ 福岡県大濠高校授業研修会講師／宜野湾市教職員研修会講師／愛知教育大学 附属名古屋中学校研究発表会シンポジスト／石垣市にて先生応援セミナー講師</p>	
管理 運営	0.35	<ul style="list-style-type: none"> ・教職大学院における入試業務遂行 ・教職大学院におけるフォローアップ委員として ・附属中学校校長として 		0.35	<p>複数教員で持つ授業科目運営に協力した／入試業務に従事した／教職大学院の 会議に参加した／教職大学院修了生のフォローアップ方策を提案した／附属中 学校長として, 管理運営の一翼を担った。特に沖縄県学力向上推進室と附属中との 連携を推進した</p>	
計	1.00			1.00		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		杉尾 幸司	所 属	教育学研究科 教職実践講座	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.35	教職大学院における担当授業等について、学生による授業評価等を定期的に行い、学生の視点を反映した授業改善を図る。また、他の教員の授業を2科目以上参観し、自身の授業改善の参考にする。課題研究等での指導に関しては、個々の学生の希望や興味・関心を尊重した細やかな対応を心がける。		0.35	教職大学院における担当授業について、学生による授業評価を実施し、授業の構成等を工夫するなど授業改善を図った。また、他の教員の授業を、前後期に各1科目(合計2科目)参観し、自身の授業改善の参考とした。課題研究での指導に関しては、授業時間以外にも研究室での面談や電子メールでの情報交換を頻繁に行い、学生の希望や興味・関心を尊重した細やかな対応を実施した。	
研究	0.35	新たな研究を進めるとともに、これまでの研究内容についてまとめ、学会等での発表や研究論文等の投稿に努める。また、科学研究費補助金等の外部資金の獲得を積極的に行う。		0.35	外部資金として、「科学研究費補助金(基盤研究C:分担者)」を獲得し、研究を進めた。また、これまでの研究成果は、学会において発表するとともに、論文投稿を行い、査読誌に2報掲載され、大学院紀要に2報掲載予定である。	
社会 貢献	0.15	附属学校を含む小中高の学校現場等との連携活動を推進し、様々な教育的課題についての解決に向けた取り組みに協力する。また、教育委員会等の教育行政からの要請等にも積極的に対応する。		0.15	附属学校および連携協力校での授業研究会等に参加し、授業改善を含む教育現場の課題についての助言を行った。また、県教委の委嘱を受け、スーパーサイエンスハイスクールの運営指導委員として、SSH校への指導・助言・評価等を行った。	
管理 運営	0.15	教職大学院における委員会活動や県教委との連携推進会議等において役割を果たすとともに、全学的な委員会活動についても積極的に協力する。		0.15	教職大学院における委員会活動、県教委および連携協力校との関連会議等において役割を果たした。全学的な委員会活動については、琉球大学博物館(風樹館)運営委員会委員として琉球大学博物館の運営に協力した。	
計	1.00			1.00		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)											
名 前		吉田 安規良		所 属		大学院教育学研究科 高度教職実践専攻		職 名		教授	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定				業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果				
教育・ 学生 支援	0.25	学士課程の担当科目はほぼ全て「教員養成」と密接に関連しているため、教職志望の学生が、将来黒板を背にして教壇に立ったときに困らないような教育活動を一教員として行う。 専門職学位課程の担当科目については、設置計画が達成できるよう粛々と行う。				0.20	左記目標が達成できるように努力した。専門職学位課程の担当授業科目については、大学の管理運営上の出張と授業日が重なることが多く、直接的な指導が十分にできないところがあった。それでも電子メールや別日に個別指導するなど出来る範囲のことは行った。				
研究	0.10	教職大学院の履行状況への対応で時間がとれないばかりか、科研費等の外部資金も獲得できなかった。時間的・金銭的余裕がないことから必要最低限の研究を継続するにとどめる。 学習指導要領の改訂に伴い、理科を教える教員に必要な授業力に変化があることから、それについての研究を進める。				0.05	それなりに論文を書き、査読誌にも掲載された。ただあまり満足のいく研究環境を構築できなかった。面白い題材の研究をそれなりに進めることができたので、引き続き実証的に研究したい。				
社会 貢献	0.15	教員免許状更新講習の講師として、あるいは各種研修会・研究発表会に参加することを通して地域の現職教師教育に貢献する。				0.20	教員免許状更新講習、沖縄県立総合教育センターの研修事業、宮古島市立教育研究所の長期研究員への指導等に携わり、微力ではあるが貢献できた部分もあったと評価している。				
管理 運営	0.50	教職大学院の所掌業務を粛々と行う。 全学的な初等中等教育教員養成の在り方の検討に寄与する。 教育学部運営会議の構成員として教職大学院の運営や学生教育に支障が出ない範囲で参加する。 教育・学生支援に係る全学の自己評価委員として認証評価対応に努める。				0.55	教職大学院に直接的に関係しない管理運営事項まで結果論として関わってしまうなど、これに時間をとられた。結果として学生教育に支障がでることがあった。 教職大学院については特別支援学校教諭免許取得課程の整備に目処がたった。				
計	1.00					1.00					
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。						<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		上間 陽子	所 属		教職大学院	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果			
教育・ 学生 支援	0.30	授業を前期3コマ、後期3コマを担当するほか、実習ならびに論文執筆の指導を行う。		0.30	予定通り実施した。			
研究	0.40	公益財団法人みらいファンドの助成で「若年出産女性調査」を開始している。調査は15名程度を対象に実施する。なお、一部の研究成果として、『すばる』『部落解放』『人間と教育』『現代思想』などへの執筆予定。また『沖縄子どもの貧困白書』の編集委員を担当。		0.40	「若年出産女性調査」は聞き取りデータ数を45名と当初予定数の3倍のデータを獲得し報告書は2018年1月に作成提出済み。『すばる』『部落解放』『人間と教育』『現代思想』『沖縄子どもの貧困白書』のほか、乾・本田・中村『危機を生きる若者たち』(東京大学出版)にも論文を投稿し出版され、当初予定していたよりも進めることができた。			
社会 貢献	0.20	講演、学校における授業づくり、取材への協力などを実施する。またいくつかの市町村のスーパーバイザーとしてハイリスクケースの会議、面接を担当する。		0.20	県内外の支援者向け、裁判官向け、検察官向け、市民向け、大学院生向けなどの講演を行なった。当初予定していた、高校などで授業を実施した他、ケース会議、要対協などにも参加し、予定通り実施した。			
管理 運営	0.10	教職大学院のFD委員を担当。		0.10	担当した。			
計	1.00			1.00				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。				

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		丹野 清彦	所 属		教育学研究科 教職実践講座
			職 名		教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生支援	0.50	(1)教職大学院の院生に対して、共通科目、選択科目を通して、経験知と学術的な理論が融合し新たな知見が見出せるように指導する。 (2) 大学院で行う生活指導・生徒指導の実践と課題や学校不適應の子どもなどの授業では、大学院生が①生活指導とは何か、と本質的に見直し、②その課題を実践例から自分の実践を見直し子ども理解を深め構想が立てられるようにする。 (3)学部の「特別活動」においては、子どもたちが学級の主人公となり、安心と信頼をもとに自己決定ができる仕組みをつくることが重要であることを理解して、教師の楽しさを感じ授業構想が立てられるようにする。 (4)教職大学院の院生以外の学生に対して、学生の要望があれば、自身の専門性を活かし実践や理論を紹介し卒論に向けた支援をすることも考えている。		0.50	(1)と(2)に関しては、大学院の学生のこれまでの実践や生活指導に対する知見を把握し、それを逆転させるような事例を中心に講義を展開した。そのことにより、これまでの大学院生たちの見方を広げることが感想等から読み取ることができた。 (3)に関しては、講義の中でグループ活動を必ず取り入れ、アクティブ・ラーニング的に学ぶ場面と振り返りの場面を取り入れた。授業後の学生の感想を読み、方法や仕方を修正したが、最後の感想や授業評価からも好評だった。 (4)に関しては、学生の要望を受け支援に努めた。
研究	0.30	(1) 教職大学院の講義や実習のあり方について、実践しながら研究し特徴を活かす実施方法を明らかにする。 (2) 生活指導の理論と実践について、沖縄の子どもたちの実態を把握し、安心感や信頼感を養う学級づくりの方法を探る。 (3) 沖縄県内の小学校8校以上に足を運び、沖縄県の学校が抱える課題を明らかにし、学力向上と生活指導の両面から改善できる方法を探る。		0.30	(1)に関しては、実習に繰り返し参加することを通して、各個人の研究テーマを把握し特徴を生かす方向で明らかにしているところである。(2)に関しては、現在も取り組んでいる研究テーマであり、時代と子どもの関係を整理し学級活動の方法やあり方を整理している。(3)に関しては、学校の課題による要請や興味のある小学校や中学校に足を運び目標の8校を達成した。
社会 貢献	0.10	(1) 教育学部附属教育実践総合センターの「アドバイザー事業部門」において、学校に10回以上赴いて協力して研究を深める。 (2) 沖縄県内外の研修の要請に応え、研修会等に10回以上参加し、子どもの問題行動を減らし、信頼される学校づくりに協力、貢献する。 (3) せんせい未来プロジェクトを4回主催し、新採用の教師支援に協力する。		0.10	(1)と(2)については、学校や団体から目標の年間10回を大幅に超える40回ほどの要請があり、できる限りの貢献をさせていただいた。(3)については、今年も卒業した学生の教師支援にあたり、沖縄市で年間6回、宮古島市や石垣市で計5回と目標を超える回数を達成した。
管理 運営	0.10	(1)教職大学院全体の円滑な運営に尽力する。 (2)教職大学院の実習委員として、関係諸機関と連携をとりながら、円滑な運用に努める。 (3)2期生の年次指導教員として、定期的な交流会や相談会を持ち、大学院生の指導にあたる。		0.10	(1)と(2)に関しては大学院としては2年度ということもあり戸惑うこともあったが、教職大学院の教職員や関係機関と連絡を密にし、連携を図りながら運営に努めた。 (3)に関しては年次指導として大学院生と連絡を取りながら指導と支援にあたった。
計	1.00			1.00	

※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

学外公表に同意しない。

学内外公表に同意しない。

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)						
名 前		伊禮 三之	所 属	教育学研究科 教職実践講座	職 名	教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.25	(1)教職大学院の課題研究や課題発見実習等の共通科目や選択科目の指導を通して、実践と理論を往還しながら実践的思考様式の形成に資するよう心がける。 (2)講義以外の院生を帯同した取り組み(フィールドワーク・現場の授業研究・講演会・資料収集等)を積極的に行う。 (3)教職大学院以外の研究科院生及び学部学生に対して、要望があれば修論・卒論等に向けた支援を行う。		0.30	(1)理論をもとにモデル教材による模擬授業を行ったり(理数系授業づくり)、大山小・東風平中をフィールドとして授業分析の手法を検討する(授業分析・リフレクション)など、理論と実践の往還による授業を展開した。また、課題発見実習においては、箱ひげ図やチェバの定理等の具体的な活用型AL型授業の開発と実践及びその省察を通して、実践的思考様式の形成に資する指導を展開した。 (2)現場の授業研究や校内研究に院生を帯同し(大山小・宮里小・具志川中・球陽高校等)、多様な視点から授業を観察する意義や、校内研究の重要性について学ばせた。 (3)研究科院生の修論のために授業研究をコーディネートしたり、学部生3人の卒論指導に協力した。	
研究	0.30	(1)科研費課題(基盤C)「沖縄における『格差と学び』をめぐる臨床教育学研究—教師教育の質的向上をめざして」(代表:村上呂里)の共同研究の取り組みを進める。 (2)次期科研費申請に向けて、アクティブラーニングとResearcher-Like Activityの関係性を整理するとともに、これまで蓄積してきた活用型の開発教材をアクティブラーニングの視点から再編する。 (3)教師教育研究の一環として、数学における地域の中核教員養成とその実践コミュニティ形成に関する研究に取り組む。		0.30	(1)科研費課題「沖縄における『格差と学び』をめぐる臨床教育学研究—教師教育の質的向上をめざして」において、石垣市立八島小の授業研究に継続的に係わり、共同研究を進めた。 (2)次期科研費申請に向けて、AL型授業を習得型・活用型・探究型に類型化し、Researcher-Like Activityを探究型に位置づけ、これまで蓄積してきた内分点・外分点によるコマ作り等の活用型開発教材をALの視点から再編した。 (3)教師教育研究の一環として、数学における地域の中核教員養成を目指した学びの場として、「高校数学教育を楽しく考えよう!の会」を定期的に開催した。	
社会 貢献	0.30	(1)本年度開催の数学教育協議会第65回全国研究(沖縄)大会の成功のため大会準備委員長として尽力する。また、2019年開催予定の日本数学教育学会第101回全国算数・数学教育研究(沖縄)大会に向け大会実行委員長としてその準備を進める。 (2)「アドバイザースタッフ派遣事業」の一員として離島を含む県内の市町村教育委員会や学校現場の研修等に積極的に関わり、教育活動に関する講演や指導助言等を通して、研究成果の地域への還元とともに沖縄県の教育課題の改善に資する。 (3)教員免許状更新講習等を担当し受講教師の実践的力量形成に資する。また、県外の教育関連機関や学校の招待講演や講座、指導助言の依頼は積極的に関わる。 (4)沖縄市教育委員会と共催して教職大学院オープン講座を開催する。		0.30	(1)大会準備委員長として、昨年8月に開催した数教協第65回全国研究(沖縄)大会に係わり成功裡に終えた。また、2019年開催予定の日数教第101回全国算数・数学教育研究(沖縄)大会に向け、大会準備委員長として準備をスタートさせた。 (2)「アドバイザースタッフ派遣事業」等を通して、学校現場の授業研究や校内研修等に積極的に関わり、授業力向上に資するような講演や指導助言等を通して、地域への研究成果の還元を行った。 (3)教員免許状更新講習や県立教育総合センターの短期研修等を担当し、体験型数学的活動の教材提供とAL型授業のモデルを実践的に紹介した。また、埼玉の私立高の公開研究会の指導助言や京都など県外の研究会の講師等を務め、教師の力量形成に資する活動に努めた。 (4)沖縄市教育委員会等と共催して教職大学院オープン講座を開催した。	
管理 運営	0.15	(1)2期生の年次指導教員として尽力するとともに、教職大学院全体の円滑な運営に心がける。 (2)教職大学院の紀要編集委員として、本年度研究紀要を発行する。		0.10	(1)2期生の年次指導教員として尽力した。また、教育実習連携協力校との連絡・調整をスムーズに進めた。自己評価書作成等では作業を予定通り進めることができず円滑な運営に資することができなかった。 (2)教職大学院の紀要編集委員として、本年度も研究紀要と年次報告書を発行する予定である。	
計	1.00			1.00		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)								
名 前		白尾 裕志	所 属		教育学研究科 教職実践講座	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.50	(1)教職大学院の院生に対して、共通科目、選択科目を通して、経験知と学術的な知見が融合しながら新たな知見が見出せるように指導する。 (2)「社会科教育研究」では、学生が①教材の開発方法、②授業の展開方法、③児童の掌握方法を理解し、授業構想が立てられるようにする。 (3)「生活科教育研究」においては、生活科が児童の生活を学校(教育)で自由に表現できる仕組みをつくるのが最も重要であることを実践の分析を通して理解できるようにして、授業構想が立てられるようにする。 (4)3年次のゼミ指導 ①教育実践学の基礎についての理解を深めるようにする。 ②代表的な社会科教育実践から社会科の授業構想に必要な条件について実践の分析を通して理解し、見識を深める。 ③卒論構想を立てることができるようにする。 (5)4年次の卒論指導 構想指導、論考、記述について指導を重ねて論理展開の整った指導を展開する。			0.50	(1)教職大学院の院生に対して科目履修、実習を通じた研究課題の明確化に努めたが、研究方法として院生自らが経験知以外の学修による気づきが十分に反映されていないことが課題である。 (2)「社会科教育研究」では、学生の授業構想力の育成に向けて、①授業分析、②授業構想演習、③見本授業を示し、授業構想を指導案として表せるようになった。 (3)「生活科教育研究」では、生活科の本質についての理解を先行実践や学習指導要領から学び、授業構想につながる指導をした。授業構想を指導案として表せるようになった。 (4)3年次のゼミ指導では、教育課程の各領域について、実践的に検討してきた。教育実践に必要な条件について実践の分析を通して理解し、見識を深め、卒論構想を立てることができるようになった。4年次の卒論指導では、構想指導、論考、記述について指導を重ねて論理展開の整った指導を進めたが、採用試験後の取組が十分でない学生もいた。仕上げに向けて書きぶりそのものを求める学生に対して、自らの論理の構築を促すことが課題である。		
研究	0.30	(1) 教職大学院の実習のあり方について、実践しながら研究し、実習の特徴を活かす実施方法を明らかにする。 (2) 教育社会学が明らかにしてきた学力についての研究成果を基に学校現場での学力向上に向けた実践的提案についての研究を進める。 (3)「福島の水産業」についての調査に基づいて、日本社会科教育学会で発表し、学会誌『社会科教育研究』に掲載する。 (4)生活教育、社会科教育の実践者であった若狭蔵之助に関する基礎的な研究作業を進める。			0.30	(1) 教職大学院の実習のあり方について、事前の調整を中心に分担とシステムがより効率的に機能し始めている。また評価方法についても観念の明確化、点数化による工夫改善ができた。 (2) 学力向上に向けた授業改善について、教科等の特質に基づいた教材研究、及び授業提案を複数回実施してきた。 (3)「福島の水産業」についての調査に基づいて、日本社会科教育学会で発表し、学会誌『社会科教育研究』に掲載した。 (4)生活教育、社会科教育の実践者であった若狭蔵之助に関する文献の分析を進めたが、論文化に至っていない。		
社会貢献	0.10	(1)教育学部附属教育実践総合センターの「アドバイザー事業部門」において、該当学校に赴いて協力して研究を深める。 (2)宜野湾市いじめ問題専門委員会委員長として「いじめ」の未然防止に努める。 (3)嘉手納町2学期制検討委員会委員長として2学期制の検証にあたる。 (4)戦略的経費を使った「教育学部・附属学校と沖縄県下の教育委員会・学校の協働による人材養成プロジェクト」において、沖縄県内各地で「がんばる教師応援セミナー教師塾」を開催する。			0.10	(1) 教育学部附属教育実践総合センターの「アドバイザー事業部門」において、宜野湾市、南城市を中心に該当学校に赴いて協力して研究を深めた。 (2)宜野湾市いじめ問題専門委員会委員長として「いじめ」の未然防止に努めた。 (3)嘉手納町2学期制検討委員会委員長として2学期制の検証にあたった。また7月から豊見城市の学期制審議会委員委員長として2学期制の検証にあたった。(4)戦略的経費を使った「教育学部・附属学校と沖縄県下の教育委員会・学校の協働による人材養成プロジェクト」において、沖縄県内各地で「がんばる教師応援セミナー教師塾」を離島を含めた県内5地域で16回開催した。		
管理運営	0.10	(1)教職大学院全体の円滑な運営に尽力する。 (2)教職大学院の実習委員として関係諸機関と連携をとりながら円滑な運用に努める。			0.10	(1)教職大学院全体の円滑な運営に尽力した。 (2)教職大学院の実習委員として関係諸機関と連携をとりながら円滑な運用に努めた。		
計	1.00				1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		藏満 逸司	所 属		教育学研究科 高度教職実践専攻
			職 名		准教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生 支援	0.50	<p>(1)教職大学院の院生に、「思考・判断・表現力育成の課題と実践」などの共通科目と「学習指導のための教材・教具の開発と活用」などの選択科目を通して、教員に求められる「普遍的資質能力」と「これからの時代で特に求められる資質能力」が高まるよう指導する。</p> <p>(2)実務家として求められる小学校での勤務経験を、単に過去の経験談として紹介するのではなく、学問的に位置付けて院生に伝える。また、講話だけでなく、ビデオ・授業記録・実物資料・教具などを提示したり、模擬授業を院生対象に行うなど伝え方を工夫する。</p> <p>(3)実践に役立つ新聞書籍等の文献や全国の教育研究者の研究動向についても随時紹介し、幅広い視野で最新の教育情報に院生が触れ刺激を受けることができるように心がける。</p>		0.50	<p>(1)教職大学院の院生に、共通科目と選択科目を通して、現場での実践に生かせるような情報と思考の場を提供することができた。</p> <p>(2)実務家として求められる小学校での勤務経験を、教育心理や教育原理と関連付けて院生に伝えることができた。授業ビデオや授業記録・実物資料・教具などを教材に講義を行った。模擬授業を複数回院生対象に行った。</p> <p>(3)実践に役立つ新聞書籍等の文献や全国の教育研究者の研究動向についても随時紹介した。</p>
研究	0.30	<p>(1)教職大学院の授業のあり方について、実践を重ねながら常に振り返り改善していく。特に本年度はwebclassを活用し、院生の主体的な学びを保証する。</p> <p>(2)アクティブ・ラーニングの義務教育段階における実践を収集し整理する。</p> <p>(3)新聞を活用した授業づくりについて整理しわかりやすい形で公開する。</p> <p>(4)プログラミング教育について整理し現場の教員が活用しやすい形で公開する。</p>		0.30	<p>(1)webclassを活用し、事前事後の学修が充実するように試み、ある程度の成果は得られたが、院生の負担感が増すこともあり改善の必要性を感じた。</p> <p>(2)義務教育段階における実践を収集し授業で紹介することができた。</p> <p>(3)単著『ワークシート付きかきこい子に育てる新聞を使った授業プラン30+学習ゲーム7』(黎明書房)を出版した。(4)プログラミング教育についての単著を執筆中である。</p>
社会 貢献	0.10	<p>(1)教育学部附属教育実践総合センターの「アドバイザースタッフ派遣事業」に登録し、要請があれば模擬授業などを通して研究活動の成果を地域に還元する。</p> <p>(2)教員免許講習で「IT教育」「新聞を使った授業づくり」「協同学習」を担当し、実践的な情報と技術をワークショップ形式で紹介する。</p> <p>(3)「自然遺産教育」「琉球切手」をテーマにした二つの市民向けの公開講座を担当する。</p>		0.10	<p>(1)教育学部附属教育実践総合センターの「アドバイザースタッフ派遣事業」に登録し、小中学校の職員研修などで講話を行った。</p> <p>(2)教員免許講習で「IT教育」「新聞を使った授業づくり」「協同学習」を担当し、実践的な情報と技術をワークショップ形式で紹介した。</p> <p>(3)「自然遺産教育」「琉球切手」をテーマにした二つの市民向けの公開講座を2月に実施する予定で準備をしている。</p>
管理 運営	0.10	<p>(1)教職大学院全体の円滑な運営に尽力する。</p> <p>(2)教職大学院一期生の年次担当教員として主たる担当教員である田中洋教授と協力して院生の二年目の研究活動をサポートする。</p>		0.10	<p>(1)教職大学院全体の円滑な運営に尽力した。</p> <p>(2)教職大学院一期生の年次担当教員として主たる担当教員である田中洋教授と協力して院生の二年目の研究活動をサポートした。</p>
計	1.00			1.00	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		村末 勇介	所 属	教育学研究科 教職実践講座	職 名	准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.50	(1)教職大学院の院生に対して、それぞれの課題発見ならびに課題解決方法の具体的な把握がなされるよう、共通科目、選択科目を通して、理論を踏まえた実践的な指導を行い、日常的な関わりを持つ。 (2)学部学生に対しては、「特別活動論」の講義、卒論ゼミ指導を通して、学級づくりや教科教育実践、性教育実践等、そのニーズに応じて適宜助言、共同研究ができるようにする。		0.50	(1)1期生に対しては、課題解決Ⅲ・Ⅳを中心としつつ、学校訪問およびメール等での指導で、継続的に研究指導を行うことができた。2期生に対しては、具体的な実践事例の紹介を通して、課題設定およびその追究方法について具体的な指導を進めた。 (2)学部学生に対しては、「特別活動」に関する講義、卒論ゼミ指導を通して、教育現場とのつながりを意識した指導を行うことができた。	
研究	0.30	(1)教職大学院におけるアクティブ・ラーニングのあり方について研究し、具体的な実践を工夫・改善し、展開する。 (2)性教育やがん教育等を通しての自尊感情を育む具体的な実践方法について、教育現場との協同研究を進める。		0.20	(1)現職院生と学卒院生との立場や、勤務校の違いを活かしての、ディスカッション、課題探究学習等を取り入れた授業改善を行うことができた。 (2)子どもの性的行動の現状から出発する性教育の実践方法と課題について、教育現場と連携して研究し、紀要にまとめることができた。	
社会 貢献	0.10	(1)教育学部附属教育実践センターの「アドバイザースタッフ事業」に積極的に協力し、教育現場との連携による実践・理論研究に努める。 (2)民間団体である「がん教育」や「性教育」に関する実践・研究グループとの共同研究や、「沖縄タイムス」での「いのちの教育」の連載を通して、地域に根差した研究の推進と、情報の提供に努める。		0.20	(1)「アドバイザースタッフ事業」では、小・中・高・特別支援学校での、研修会や飛び込み授業を延べ11回実施。また、県外での高校での講演、教育委員会での研修会講師等を勤めた。 (2)民間団体であるがん患者会や、性教育研究会との共同的取り組みを進めるとともに、「沖縄タイムス」での「いのちの教育」の連載を行うことができた。	
管理 運営	0.10	(1)教職大学院の2年次にあたり、より計画的な職務の遂行に努め、円滑な運営に資することができるようにする。 (2)ホームページ作成やオープンキャンパスの運営を中心に、教職大学院の広報を計画的に進める。		0.10	(1)教職大学院入試問題(論述)作成や自己評価書作成など、大学院運営にあたっての作業にとり組むことができた。 (2)オープンキャンパス用の紹介ビデオ作成や、ホームページの更新など、教職大学院の広報活動を進めたが、更に工夫が必要であった。	
計	1.00			1.00		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成30年5月以降に学内外へ公表されます。

平成29年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		比嘉 俊	所 属	教育学部 教育学研究科	職 名	准教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成29年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成29年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.40	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞から教育に関する時事問題を授業で扱う(毎時間) ・採用試験に向けてのアドバイスまたは補講(2回/月) ・教育現場と連携し、学生の視察校または研究実践校を紹介する(2校) ・学生同士の交流を図り、科目目標に近づく知を練り上げる授業の展開(毎時間) ・院生の学会発表への助言 		0.50	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞から教育に関する時事問題を授業で扱う(毎時間) ・採用試験に向けてのア補講(1回/週) ・採用2次試験(模擬授業)対策(10回) ・教育現場と連携し、学生の視察校または研究実践校を紹介する(2校) ・学生同士の交流を図り、科目目標に近づく知を練り上げる授業の展開(毎時間) ・院生の学会発表への助言 	
研究	0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・科学研究費助成事業(研究代表者:比嘉俊)の遂行 ・科学研究費助成事業(研究代表者:道田泰司)への協力 ・学会誌への投稿 ・学会発表 		0.30	<ul style="list-style-type: none"> ・科学研究費助成事業(研究代表者:比嘉俊)の遂行・・・県立教育センターとの連携, 離島調査, 論文発表 ・科学研究費助成事業(研究代表者:道田泰司)への協力・・・論文発表, 口頭発表 ・学会誌への投稿・・・4本 ・学会発表・・・2回 	
社会貢献	0.20	<ul style="list-style-type: none"> ・教科教育サークルとメーリングリストの運営 ・学校現場での講師・指導助言・師範授業(5回) ・附属中学校校内研への参加(5回) 		0.10	<ul style="list-style-type: none"> ・教科教育サークルとメーリングリストの運営(計画より小規模になった) ・学校現場での講師・指導助言・師範授業(10回) ・附属中学校校内研への参加(2回) 	
管理運営	0.10	<ul style="list-style-type: none"> ・教職大学院紀要の発刊 ・教職大学院年報の発刊 ・院生終了後のアフターケア案の作成 		0.10	<ul style="list-style-type: none"> ・教職大学院紀要の発刊(年度末予定) ・教職大学院年報の発刊(年度末予定) ・院生終了後のアフターケア案の作成(道田氏と協同) 	
計	1.00			1.00		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		